

図書館だより



5月号

2024年5月24日
安田小学校図書館

■ 1年生の図書館利用が始まりました

お話を楽しむ「図書館開き」を皮切りに、貸出・返却の仕方を授業で学んだ1年生が、休み時間に図書館にやってくるようになりました。

小さな1年生が大きな絵本や図鑑をかかえている姿を見ると、うまく図書館を利用できるかなと心配になりますが、どの児童も上手に本を選び、借りていきます。もちろん、利用者カードが探せないとか、借りたかった本が見当たらないといった小さな困りごとはありますが、図書委員を中心に高学年のお兄さんお姉さんに優しく助けてもらい、にこにこしながら帰ってきます。この小さな利用者が6年間でどんな本を読むようになるのか、楽しみです。



保護者の皆様へ「朝読書の本について」

朝読書の本は、学校図書館で借りた本か学年文庫の本を読むことになっています。家の本を持ってこることも可能ですが、基本的には学校の本を読んでほしいものです。

小学校の本は、「安田小学校の子どもたちに6年の間に読んでほしい本」という視点を持って選ばれています。ロングセラーが多いので、家にある本や書店にずらりと並んでいる本のような華やかさはないかもしれませんが、読んで深く考えることができたり、強く心が動かされたりする本を大切にしています。だからこそ、図書の授業での様々な働きかけを受けて児童が興味をもち、朝読書の時間に学校の本を読むという流れを作りたいと考えています。

子どもたちが読むすべての本が、読みごたえのある本である必要はありません。映画のノベライズやお気に入りのシリーズを読みたい時もあるでしょう。ですが、小学校の間に読む本の中で、大人になってもなお何度も読み返したくなる本に出合ってもらいたい、そのために毎日10分間の朝読書を有効に使ってほしいと思っています。

ロングセラー絵本

保護者の方も子どものころに読んだかもしれない懐かしい絵本です。

『ばばあちゃんのおはなし どろんこおそうじ』

さとうわきこ/さく・え 福音館書店



そうじをするはずだったのに、どろんこになってけんかをはじめてしまったいぬとねこ。様子を見に来たばばあちゃんは、怒るのかと思いきや「さあ あそぼう」といって大騒ぎを始めます。さとうわきこさんの大人気シリーズ。

『となりのせきのますだくん』

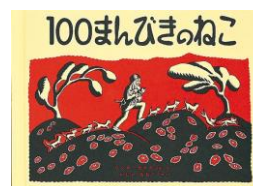
武田美穂/作・絵 ポプラ社



1年生のみほちゃんのとなりにすわっているのは、いじわるなかいじゅうの「ますだくん」。言わなくていいことばかり言う「ますだくん」とある日けんかしてしまったみほちゃんは、学校をお休みしたくなってしまいます。

『100まんびきのねこ』

ワンダ・ガアグ/ぶん・え いしいもこ/訳 福音館書店



猫を飼いたいおじいさんとおばあさんがいました。おじいさんが丘をこえ、谷を歩いていって「どこもここも、ねこでいっぱいになっている おか」にたどりつきました。さっそく猫を選ぼうとしたのですが、どうしても1匹だけを選ぶことができません。

『ラチとらいおん』

マレーク・ペロニカ/ぶん・え とくながやすもと/訳 福音館書店



世界中で一番弱虫のラチの夢は飛行士になることです。そんなラチのところにあるひ「ちいさな あかい らいおん」がやってきて言いました。「きみも つよくなりたいなら、ぼくが つよくしてやるよ」。

『どうぞのいす』

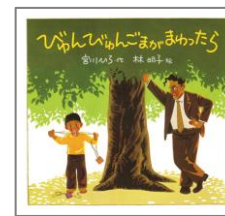
香山美子/作 柿本幸造/絵 ひさかたチャイルド



野原におかれたいすに、どんぐりがいっぱいあったカゴを置いたロボさん。少しだけおひるねをして、起きてみるとなんとどんぐりがかごいっぱいになった。いったいおひるねの間に何があったのでしょうか。

『びゅんびゅんごまがまわったら』

宮川ひろ/作 林明子/絵 童心社



学校のとなりに、みんなの大好きな遊び場がありました。ところが、男の子が一本橋から落ちてしまったために、遊び場にはカギがかけてしまいました。子どもたちはカギを開けてもらえるよう校長先生にお願いに行ったのですが、先生はいじわるそうにある宿題を出しました。